

田毎に映る月に

かえるもびっくり!

楽しく美しい

童話があります



後藤樽根さん

「田ごとの月」というタイトルの童話があります。主人公はかえる。水を張った田にいる一匹のかえるは、自分の田に映る月が、一番きれいだと思っていましたが、どの田にも月が同じように美しく映っているのに気づきました。そして「お月さまはみんなのもの」「どの田もどの田もいい田んぼ」と歌い始めると……。仲間であることの大切さ、みんなのものを、みんなで守っていく大切さを感じさせるお話です。

作者は後藤樽根さん（1908〜1992）。大分県由布市（旧挾間町）に生まれ、大分師範学校を卒業し、地元の小学校の教師になりました。学生時代から童

話を書いたり、童謡を作詞したりしていました。また、月刊誌「童謡詩人」を創刊。全国から童謡作品の応募があり、後藤さんは全国に知られるようになりました。

戦後、後藤さんは「日本童話会」を設立し、優れた童話作家をたくさん育て、児童文学の発展に尽くしました。地元の大分県由布市では、後藤さんの功績を後世に伝えるため、「ならねっ子まつり」を開催しています。

全部の田んぼに
きれいな月が
映ってる。
だから
かえるたちは
仲がいいのかな



童画 たかおかひさえ

田ごとの月

作 後藤樽根

山に囲まれた小さな村に、小さな田んぼが、いくつもありました。

田んぼには、どの田んぼにも、かえるが住んでおりました。

夜になると、どの田んぼにも、お月さまや星が映りました。

だから、どの田んぼのかえるも、お月さまや星は、自分たちのものだと思っていました。

ある、月のきれいな夜でした。一つの田んぼに住んでいるかえるが、声をそろえて歌いました。

♪村じゅうで いちばんいい田んぼはこの田んぼ
明るい月も げろつく げろろ

きれいな星も げろつく げろろ
みんな この田んぼに おりてくる
げろつく げろろ げこ げこ げ

すると、どうでしょう。どの田んぼのかえるも、みんな同じ歌を歌いだしたではありませんか。

「おや、みんな、まねをしているな」
一匹のかえるが、あぜにあがって 隣の田んぼをのぞいてみました。

すると、その田んぼにも、お月さまがきれいに映っています。

「おやおや、お月さまはひっこしなされたかな」
そう思って、自分の田んぼを見ると、そこにも映っています。

「おや、どの田んぼにも映っているぞ」
かえるがびっくりして、大声で叫んだので、村じゅうのたくさんのかえるが、みんなあぜにあがってきました。そして、回りの田んぼを見回して、目をぱちくりさせました。

お月さまは、空にたった一つ。けれども、どの田んぼにも映っていました。

さっきのかえるが、歌いだしました。
♪お月さまは みんなのものだ
げろつく げろろ

きれいな星も みんなのものだ
げろつく げろろ

どの田んぼも どの田んぼも いい田んぼ
げろつく げろろ げこ げこ げ

すると、ほかのかえるたちも、声をそろえて歌いはじめました。どの田んぼのかえるたちも、みんな声をそろえて、歌いだしたので、小さな村の中が、たいそうにぎやかになりました。